のみであつた。

サシヲ　指尾　能美郡なる舊市ノ瀬溫泉から白山への登路中、金床岩を過ぎた上部の嶮路で、標高一四一八米に在る。

サスエ　指江　河北郡英田郷に屬する部落。

サセイ　左靜　小松の俳人。所居を子日庵と號した。元文四年七月三日歿。

サダケシユウケン　佐竹秀賢　能美郡串眞宗東派光玄寺の僧。諱は圓頓、大行院と稱し、寮司に任ぜられた。明治十九年十一月二十九日六十七歳を以て寂。

サダケシヨウゲン　佐竹將監　慶長十七年前田利長に仕へて三百石を領した。子孫相繼いで藩に仕へる。

サダソガハ　定曾川　鹿島郡中挾領けやき谷より出で、八幡領にて江曾川へ落合ひ、下流御祓川となる。水源から落合まで一粁許。

サダツグ　定次　加賀の刀工。加州住定次と切る。弘治頃。

サダツグ　貞繼　加賀の刀工。加州住藤原貞繼と切る。天正頃。

サダトシ　定俊　加賀の刀工。加州住定俊作と切る。文明頃。

サダトシ　貞俊　加賀の刀工。加賀國貞俊と切る。寛文頃。

サダヒロ　定廣　能登の刀工。能州住定廣作と切る。天正頃。

サダヒロ　定廣　鳳至郡本郷に屬する部落。

サダユキ　貞之　加賀の刀工。鐔の作も多い。加州住隱岐長右衛門貞之、又は加州住貞之文政九年八月日などと切つたものがある。天保十一年二月の舊記に、長右衛門が御細工所御用を勤めてゐたが、先達て出奔、其の後立歸り專ら職業相勵候躰との事がある。隱岐氏は文政頃の上申書などに尾木と書かれ、又沖とも書かれる。諱も嘉永の頃には貞行としたものもある。

サダヨシ　貞吉　加賀の刀工。承應三年前田利常が製作せしめて瑞龍寺に寄進した二十二刀中に、賀州住藤原貞吉作と銘じたものがある。

ザツカシユウ　雜華集　江沼郡大聖寺實性院に住した無隱道費の遺稿である。

サツキ　皐月　藩政の頃、能登で一月十五日をいうた。朝餉に苗株圃子と稱する小豆汁を食し、男子は田植の際苗を束ぬるに用ふるノウデ藥を打ち、その後業を休む所もあつた。

サツサシチベエ　佐々七兵衞　丹羽長重の臣。慶長五年八月前田利長軍の一たび納馬した際、丹羽氏の斥候となつて働き、淺井畷に於いて、長氏の臣沖覺左衛門と交刄して首を取つた。

サツサシヨウエキ　佐々正益　父孫十郎成治は佐々成政に養はれ、豐臣秀吉に仕へて三千五百石を領した人。正益は初め勘左衛門といひ、浪人後剃髮し、河地才右衛門の智なるを以て金澤に來り、元和元年の頃醫師として召出され、合力米百俵を受け、寛文元年致仕、九年歿した。その嫡統は快安正俊・長琢正治・伯順政賢・正益政經・正益政吉・大玄等相繼いだ。

サツサトノモ　佐々主殿　父藤左衛門は前田利長に仕へ、七百石を受けた。主殿は十五歳で利常に仕へ、新知三百石を受け、後父の祿を併せて千石となり、小々將に列し、萬治二年大小將組に選つたが、病を以て辭し、寛文八年馬廻組となつた。當時主殿は負債山積したので、組頭は祿七百石を割いて償却の途を講ぜしめ、殘餘三百石で家政を理めしめたが、能くその整理を行ふを得ず、負債銀二百貫目に達し、屋宇破れて室内に傘を用ふるに至つたから、延寶五年貸銀を藩に求めたけれども、組頭は之を許さなかつた。主殿乃ち願書を直接横目に提出するの亂階をなし、又組頭の召喚にも應じなかつたので、六年九月廿六日藩は主殿を村井藤十郎の家に、嫡子孫助を前田萬之助の家に、次男左平次を加藤圖書（後に前田虎之助）の家に、三男平五郎を葛卷十右衛門の家に禁錮し、十月十日四人に切腹を命じた。時に主殿齡五十七、孫助三十二、左平次二十二、平五郎十一。後藩主殿の資財を沒收したが、彼の食祿に應ずる武器馬具を備へ、又非常事變に處する軍用金を鎧櫃中に蓄へて居た。

サツサナリマサ　佐々成政　早くから織田信長に仕へて軍功があつた。天正三年信長越前を討つて之を平定し、九月諸將を之に封じた時、成政は前田利家・不破光治と共に府中十萬石を領した。七年成政信長から越中一國を受け、富山城に移つた。十二年羽柴秀吉の織田信雄及び德川家康と釁を構へた時、成政は信雄等に黨し、秀吉の與黨たる利家を覆さんと欲し、八月廿八日河北郡松根・横根の方面より兵を進めて、前田方の朝日山の壘を襲はしめたが、利家の後卷によつて退却し、次いで神保氏張を遣はして鹿島郡荒山方面から侵入せしめたが、亦長連龍等の反擊に會して、著しき功を奏せず、僅かに荒山に兵を置いて之を守らしめた。是に於いて自ら大軍を率ゐ、礪波郡宮島から澤川を經、九月九日前田氏の將奥村永福の守備する末森城を襲うたに、利家は十一日之を救援し、成政は歸路鳥越城を奪うたのみで納馬した。因つて利家は鳥越を回復せんと企て、十月十四日之を襲ひ目的を達しなかつたが、荒山の壘は高畠定吉等が攻めて越將袋井隼人を驅逐した。是の月上杉景勝は前田氏に對する同盟の約を實現せん爲、新川郡境城を占領し、十一月利家は氷見郡阿尾の城主菊池武勝に向背の利害を諭し降伏を勸めた。是に於いて成政の勢大に蹙まり、その窮境を脱せんが爲、十二月遠江に赴いて家康に會した。世に成政の沙羅沙羅越を通過したと傳へるものはこの時のことであるが、成政は之によつて形勢を好轉せしめることを得なかつた。十三年二月廿四日利家また村井長頼等をして礪波郡蓮沼に進擊せしめたので、成政は之に報いる爲、三月廿一日河北郡鷹巣城に來襲し、四月八日には利家が更に鳥越城を攻め、同月成政は鳥越・倶利伽羅二城の途に保ち得ぬを慮つて守兵を撤したから、前田軍は代つて之を占領し、尙進んで前田秀繼を今石動に置いた。五月成政は今石動を攻めしめたが捷たず、而して七月阿尾城主菊池武勝は遂に降を利家に請うた。この際秀吉は上國に暇を得たので、豫て利家の求むる所に從ひ、八月八日自ら成政征討の途に上り、利家を先驅たらしめて、廿二日吳服山に陣するに及び、成政は衆寡敵する能はずして降し、僅かに新川一郡を賜はつたが、それも十五年六月利家の管する所となり、成政には肥後一國